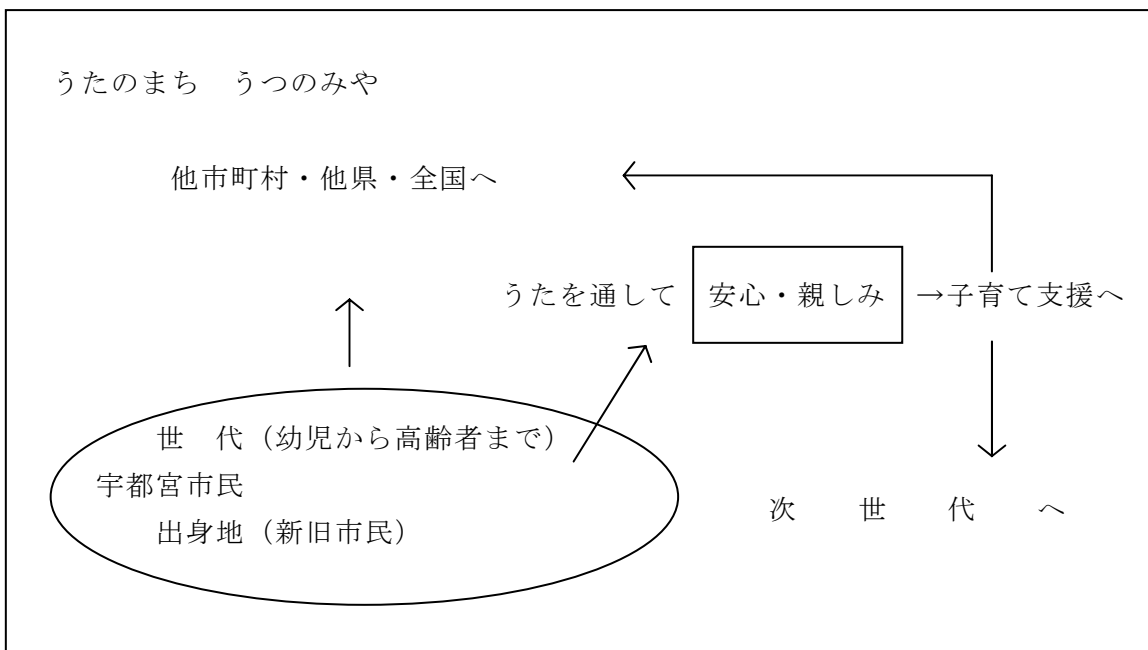


No.	提 案 名	提 案 団 体 名	
		代表者氏名	所 属
7	うたのまち うつのみや ～次世代につなぐ メロディ流れる「うつのみや」～	宇都宮共和大学 2年 教職課程受講者	
		安良岡 理佐	宇都宮共和大学 シティライフ学部
			指導教員 氏 名
			犬塚 恒士

1 要旨

- 北関東の中心都市である宇都宮市は、近年、主に「餃子のまち」、世界的な演奏者を中心とした「ジャズのまち」、さらには「カクテルのまち」、「妖精のまち」などで知られている。また、保健医療面や行政支援の面からも、全国的に子育てしやすいまちとして知られている都市である。
- ところで、宇都宮市は、童謡で有名な「野口雨情」の終焉の地であり、晩年の旧居が保存され、碑文が残され、宇都宮環状道路の陸橋には小学生の案による「宮環雨情陸橋」の名前が冠されている。
- 私たちは、まちづくりの方向として、大多数の市民が参加でき、親しまれ、さらに、次世代に受け継がれていけるものが望ましいと考える。
- そこで、健全な青少年の育成を目指す宇都宮市が、次世代に心を育て繋いでいく、子育てにやさしいまちづくりの一環として「うたのまち うつのみや」に向けた取組を提言する。



2 目標

- 宇都宮市がこれからも一層輝き、親しまれるまちになるにはどうすればよいか、という観点でまちづくりを考えたとき、市民全員が何らかの形でまちづくりに関わりを持つことが大事な要件となる。このことを前提にした上で、私たちは次の3点を目標にした。

(1) 青少年から高齢者までの居がいのあるまち

青少年から高齢者にいたるまでの市民にとって、参加型のまちづくりによって居がいのあり、宇都宮市に住んでよかったまち、住みたくなるまちを目指す。

(2) 幼児から青少年そして成人など幅広い市民の心の醸成

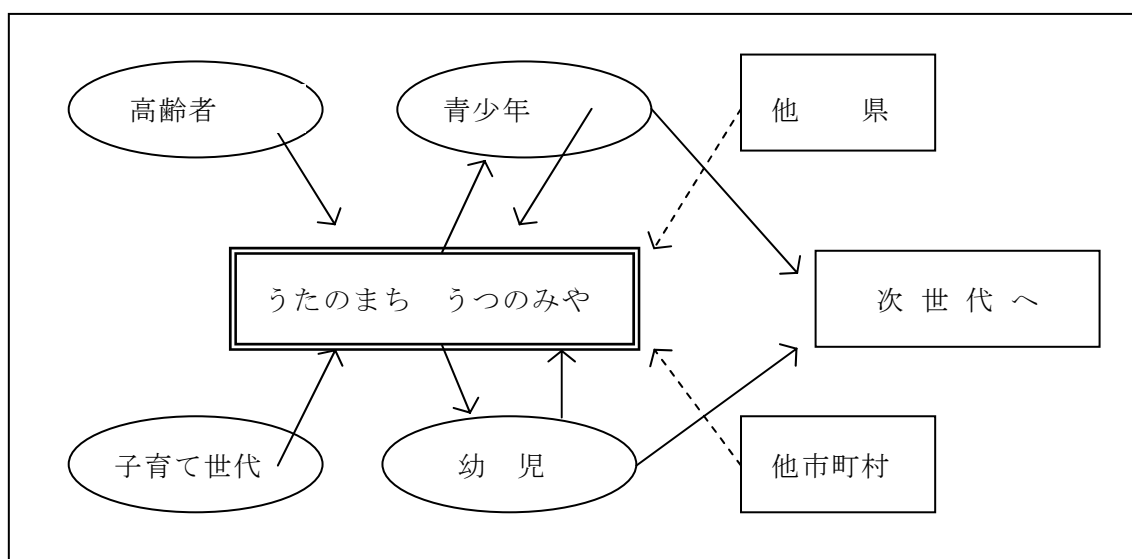
「三つ子の魂百まで」の諺を引くまでもなく、市民の心に入り込むまちづくりを進める。

(3) 子育て支援・子育て世代の支援

世代を超えて次世代をになう子どもたちの心を育て、子育て世代の支援を念頭においたまちづくりを進める。

◎ 「うたのまち うつのみや」によるまちづくり

(1)(2)(3)の目標に向かって、「うたのまち うつのみや」を提唱するものである。



3 現状

(1) まちづくりについて

今日、多様なテーマのもと、全国的にまちづくりが展開されている。例えば、「花と音楽の町宣言」(北海道大空町)、「いわしの町九十九里」(千葉県九十九里町)、「13万km²まるごと博物館」(東京都府中市)、「オレゴン生涯学習村」(静岡県掛川市)、「吉四六の里・学びのまちづくり」(大分県臼杵市)など、それぞれの自治体の地理、歴史、産業、文化等々に立脚した形でアピールをおこなっている。また、栃木県内の各自治体でも、地域の特性を活かしたまちづくりに取り組み、PRを進めているところもある。

ところで、宇都宮市は、「餃子のまち」として広く知られており、他市町村・他県から餃子を目当てに訪れる人々も多くなっている。「餃子のまち」として今日にいたるまでは、関係者の永年の努力、特に市民に喜ばれる製品作りに専念した関係業者の尽力が大きかったと考えられる。また、世界的ジャズ奏者に由来した「ジャズのまち」も、県の事業「リズムスクール」と相まって近年広まりつつあり、「カクテルのまち」「妖精のまち」についても、徐々に親しまれるようになってきている。

私たちは、このような状況を踏まえた上で、中核都市である宇都宮市がこれからも一層輝き、親しまれるまちへと発展するにはどうすればよいか、という観点でまちづくりを考えていきたい。

(2) 子育てに優しいまちについて

若い母親や妊婦向けの雑誌として、「AERA with Baby」(朝日新聞出版発行)がある。この雑誌の2009冬号では、全国96都市の調査に基づいた「子育てに優しい町」が掲載されている。この調査は、①「産みやすい町」—出産可能な産院・病院の数、妊婦支援、出産奨励金制度の充実、出産した母親への保健師の巡回実施率、②「育てやすい町」—保育園の入りやすさ、子育て支援制度の充実、③「医療が充実している町」—小児科の数、乳幼児医療費助成で小児医療費免除が受けられる対象年齢、などを総合的に判断し、ランク付けしたものである。それによると、宇都宮市は全国第2位に位置づけられている(なお、第1位は新潟市、第3位は新宿区となっている)。

子育ての成否は、今後の国、県、市町村の将来に関わる最重要課題であることはいままでもない。そして、子育ては、単に子育て世代のみが抱えるものではなく、世代を超えた支援が重要である。

私たちは、この観点に立ち、子育てを青少年からの高齢者まで世代を超えた市民全員が参加して、支援していくことが次世代にもつながるものであると考えている。

(3) 「うたのまち うつのみや」について

ア 野口雨情と宇都宮



童謡詩人で広く知られている野口雨情は、明治 15 年に茨城県磯原村（現：北茨城市）に生まれた。15 歳で上京し、19 歳の時に東京専門学校高等予科文学科（現：早稲田大学）に入学した。この頃、坪内逍遙や小川未明などと知り合い、詩文の道に入ったと伝えられる。

23 歳の時、喜連川町（現：さくら市）から妻を迎えた。その後、北海道、福島県、茨城県、東京都と移り、晩年は宇都宮市の鶴田に移り住んだ。この間、「雨降りお月さん」「十五夜お月さん」「シャボン玉」「船頭小唄」「波浮の港」など数多くの童謡・唱歌、民謡などの作詩を手掛けた。

雨情の作詞した童謡・唱歌は、多くの人々に親しまれ、今でも歌い継がれている。また、雨情は書にも通じ、本市にも彼の書が多く残されている。

宇都宮環状道路が完成したとき、鶴田に架かる陸橋の愛称を（小学生からの案を採用して）「宮環雨情陸橋」と命名したことから分かるように、今でも市民に親しまれている雨情は、その旧居・碑文とともに、これからも宇都宮市の宝として引き継いでいくべきものの一つである。



イ 歌・童謡について

子どもの頃に口ずさんだ歌や、慣れ親しんだ童謡は、いつでも頭の中でその当時の状況とともに懐かしく思い起こされ、人々を優しい気持ちにさせてくれる。その思い出は、母であり、家族であり、友であり、先生であり、山、川・・・など果てしなく続く。また、歌や童謡をふと耳にすると、不思議と見知らぬ人とも話題ができ、和やかになったりもする。最近、童謡のメロディが流れている駅などもあり、少し気持ちが和らぐ感じがする。

私たちは、この歌や童謡のもつ効果をまちづくりに活かし、派手でなく、しつとりとした、落ち着いたのあるまちをめざしたい。

4 課題 ～次世代につながるまちづくりに向けて～

(1) ソフト面重視のまちづくりについて

ハード型のまちづくりとして何らかの建築物を整備する場合、当然ながらその建築物は重要な役割を果たすが、一方で、各種の補助金を活用したとしても、建築物は当初の整備費のみならず、毎年の運営費及び維持費が市民の大きな負担となってくるといふ側面もある。また、建築物自体の耐用年数の問題もある。

まちづくりに建築物が重要な位置を占める場合もあるが、費用対効果から考えた場合、必ずしも市民の賛同を得られるとは限らない。

この観点に立ち、私たちは、できるだけハード整備を伴わない、ソフト面重視の、多くの市民が日常的に参加できるまちづくりを目指すべきと考える。

(2) 市民参加のまちづくりへ

まちづくりの成否は、市民の理解と参加であると考えられる。宇都宮市は、近年、他県や他市町村からの転入者も多く見られる。宇都宮市に長く住んできた市民が、転入してきた市民とともに、幼児から高齢者まで世代を超えた市民の参加できるようなまちづくりの体制づくりが望まれる。

(3) 次世代につながるまちづくりへ

幼児や青少年は、これからの宇都宮市、そして郷土を担う世代である。彼らが愛着を持ち、懐かしいまち、大きくなっても住みたいまち、誇りの持てるまち、という視点からまちづくりを考えたい。

5 調査結果の概要

(1) 調査の概要

ア 目的

市民にとって童謡や唱歌がどの程度親しまれているのか、また、まちづくりの方向として童謡や唱歌がふさわしいのか、さらに今後の課題などについての参考意見を集めるためにアンケート調査をおこなった。

イ 対象

小学生、中学生、高校生、短大・大学生・一般成人

区分	小学生	中学生	高校生	短・大生	一般	計
回答人数	83	60	73	44	44	304

ウ 方法

アンケート調査（10～11月に実施）

(2) 結果の概要

ア 野口雨情の認知度

○ 多くの童謡を作った野口雨情が宇都宮に住んでいたことを知っていますか。

区分	小学生	中学生	高校生	短・大生	一般	計
知っている	8%	8%	3%	39%	64%	19%
知らない	92%	92%	97%	61%	36%	81%
	100%	100%	100%	100%	100%	100%

イ 歌の認知度

○ 野口雨情の童謡や唱歌、民謡などで知っているものの記号を○で囲んでください。(いくつで

- | | |
|-----------|-----------|
| ア 十五夜お月さん | ク シャボン玉 |
| イ 船頭小唄 | ケ あの町この町 |
| ウ 七つの子 | コ 兎のダンス |
| エ 青い眼の人形 | サ 紅屋の娘 |
| オ 證城寺の狸囃子 | シ 俵はごろごろ |
| カ 赤い靴 | ス 波浮の港 |
| キ 黄金虫 | セ 雨降りお月さん |

%は小数点以下四捨五入

区分	小学生	中学生	高校生	短・大生	一般	計
ア 15夜お	53票 (17%)	31票 (19%)	28票 (14%)	27票 (14%)	36票 (12%)	175(15%)
イ 船頭小	1票 (0%)	3票 (2%)	0票 (0%)	0票 (0%)	7票 (2%)	11(1%)
ウ 七つの	36票 (11%)	26票 (16%)	46票 (22%)	32票 (17%)	33票 (11%)	173(15%)
エ 青い眼	14票 (4%)	6票 (4%)	1票 (0%)	9票 (5%)	20票 (7%)	50(4%)
オ 證城寺	40票 (12%)	15票 (9%)	28票 (14%)	20票 (11%)	36票 (12%)	139(12%)
カ 赤い靴	26票 (8%)	12票 (7%)	20票 (10%)	24票 (13%)	38票 (13%)	120(10%)
キ 黄金虫	25票 (8%)	6票 (4%)	7票 (3%)	10票 (5%)	19票 (6%)	67(6%)
ク シャボン	70票 (22%)	36票 (22%)	64票 (31%)	40票 (21%)	38票 (13%)	248(21%)
ケ あの町	28票 (9%)	13票 (8%)	2票 (1%)	9票 (5%)	16票 (5%)	68(6%)
コ 兎のダ	21票 (7%)	6票 (4%)	9票 (4%)	11票 (6%)	24票 (8%)	71(6%)
サ 紅屋の	2票 (1%)	3票 (2%)	0票 (0%)	0票 (0%)	0票 (0%)	5(0%)
シ 俵はゴ	1票 (0%)	2票 (1%)	0票 (0%)	0票 (0%)	3票 (1%)	6(1%)
ス 浮港の	1票 (0%)	3票 (2%)	0票 (0%)	2票 (1%)	4票 (1%)	10(1%)
セ 雨降り	3票 (1%)	5票 (3%)	0票 (0%)	4票 (2%)	19票 (6%)	31(3%)
計	321票	167票	205票	188票	293票	1174票

ウ 好きな歌・これからも歌い継がれて欲しい歌

○ あなたの好きな童謡や唱歌，またはこれから歌い継がれて欲しい童謡や唱歌を3つだけ挙げて下さい。

票	曲名	票	曲名	票	曲名
55	シャボン玉	12	チューリップ	8	兎のダンス
47	七つの子	12	大きな栗の木の下で	7	われは海の子
38	赤トンボ	12	かごめかごめ	7	黄金虫
31	ふるさと	11	あの町この町	7	とうりゃんせ
30	十五夜お月さん	10	こいのぼり	7	小さい秋見つけた
21	赤い靴	10	犬のお巡りさん	6	青い眼の人形
20	森のクマさん	10	カエルの歌	6	アルプス一万尺
19	もみじ	9	メダカの学校	5	お正月
15	どんぐりコロコロ	9	おぼろ月夜	4	もしもしカメよ
13	證城寺の狸囃子	8	まっかな秋		

- 雨降りお月さん
- 荒城の月
- お馬の親子
- 夕焼けこやけ
- たきび

- 船頭小唄
- 春の小川
- アイアイ
- チョウチョ
- とんび

- ぼくはクマ
- 木こり
- はないちもんめ
- スズメのサンバ
- ぞうさん

エ うたによるまちづくりについて

- まちづくり「童謡のまち うつのみや」について、あなたの考えをお聞かせ下さい。
(一般のみ実施)

- 日本の童謡，大切に受け継いでいきたい。
- 大人になるとだんだん聞く機会が少なくなるように思います。BGM等で流れてくると良い。
- 交差点の歩行者横断の音楽などにどんどん取り入れて，まち全体にいつも童謡が流れていると観光客にももっとPRできると思います。
- もっと頑張らないと童謡のまちが浸透しない。
- 童謡は何世代も続いている素晴らしいものであり，もっと耳にする機会が増えると良いと思う。
- 宇都宮の人は皆歌える曲が多いなど，他の町に比べても「童謡のまち」らしさがあるとよいと考えます。
- 童謡にちなんだ絵本の製作，記念館等があればよいし，もっと親しみやすくなるのではないか。
- 宇都宮には心をうたれる童謡がたくさん残っています。これからも残していきたいと思います。
- 知らないことがたくさんあると思うので，市民の方に知ってもらうために情報を広げると良いと思う。
- 幼少期や児童期に慣れ親しんだ曲が，親から子へ，子から孫へ歌われていけば良いと思う。
- 童謡で知られている町はないので，童謡でまちづくりをしていくのは良いと思う。また，私自身，童謡に親しむ機会が増えて良いと思う。
- あまり知識がなくこれから調べていきたいと思う。
- 子どもが大きくなると，童謡を歌ったり，聴いたりすることがなくなるので，日常生活で童謡に触れる機会がもてればと思います。
- 「童謡のまち」として発展することで，宇都宮の何がどのように変わっていくのでしょうか。
- 宇都宮のまちおこしは，餃子，カクテル，ジャズといろいろありますが餃子以外はパッとしません。それぞれがバラバラで統一感がないからだと思います。「童謡のまち」そのものは良いアイデアとは思いますが，既存イメージとのギャップが気になります。

5 提案

(1) 「うたのまち うつのみや」をめざして

- 市民参加のまちへ—歌を通して新旧市民，世代を超えた市民の参加へ
- 市民の育成———安心感を持てるまち，郷土に親近感の持てる市民に
- 子育てに優しいまち・次世代を育てるまちへ
———歌を通して子どもによい影響を与え，子育て世代に安心感を与えるまちへ

(2) 事業

ア 童謡・唱歌の定時放送

市関係機関———本庁，出張所，図書館，生涯学習センター，冒険活動センター，市体育館，市美術館，小中学校（登下校を中心に） 等々

その他———駅（東武宇都宮駅，JR宇都宮駅），市内の県関係機関，保育園，幼稚園 等々

イ 童謡ボックス（仮称）の設置

野口雨情の旧家，宇都宮城址公園，宮の橋 等々

ウ 童謡・唱歌のつどい開催（将来的に）

エ PR事業など

(3) 期待される効果

- 落ち着きのあるまちづくりへ
- 高齢者のいきがい助長へ
- 来訪者の親しみ感増幅へ———リピーターへ
- 乳幼児期からの心の育成———心豊かな若者に
- 中高生の心へ———落ちついた学校生活へ
- 子育て世代へ安心感———宇都宮に住みたい
- 全国的な認知度アップ

6 課題と今後の方向

(1) 課題

- 市民の理解———PR活動
- その他———歌の著作権等

(2) 今後の方向 市民の理解の確認

7 おわりに

まちづくりは決してきらびやかなものは要らない。むしろ気軽に口ずさめ、だれもがそれとなく意識できる取組が功を奏するものとする。